

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	25 -	事業名	市民まつり事業	担当部課	くらし文化部たつせがある課
------	------	-----	---------	------	---------------

基本情報	総合計画	基本方針	5	みんなの力を結集する自治と協働のまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	5	合理的で効果的な行政運営を行う	款	6	商工費
		施策の進め方	-		項	1	商工費
	まちづくり 行程表	フラッグ	F1	「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～	目	1	商工費
		政策分類	8	市民主導型市民まつりの実施	大事業	5	市民まつり事業
	その他(関係法令、要綱等)		ながくて市民まつり実行委員会規約				
事業開始の背景、経緯等		平成24年度から、市が主体で行っていた市民まつりを、市民が主体となり実行委員会を組織して企画や運営を行うこととなった。					

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 行政主導で実施してきた市民まつりを、市民が主体となって実行委員会を組織し、まつり全体の企画・運営を行う。					
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市民					
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 地域文化、産業の発展・向上を目指すため、市民相互のふれあいの場を創出する。					
	事業を構成する 事務事業	① 市民まつり事業	拡充	④			
	②		⑤				
	③		⑥				

コスト推移	項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	事業費(A)	千円	予算	/	2,854	3,100	3,100	3,300
			決算	/	2,801	2,978	3,090	
	人件費(B)	千円	決算	/	7,714	4,354	7,491	
総コスト(A)+(B)	千円	決算	/	10,515	7,332	10,581		

成果推移	成果指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	A 市民まつり来場者数	人	目標	18,000	18,000	19,000	22,000	24,000
			実績	12,000	18,000	21,000	23,000	
	B		目標					
			実績					
	C		目標					
		実績						
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 実際に市民まつりに来場した人数を指標とする。雨天の場合は来場者数が減るものの全体的に増加傾向にあるため、前年度より1千人の増加を見込んだ。								
B								
C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 瀬戸市、尾張旭市、東郷町、日進市等、近隣市町村も同様のまつりを開催している。
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 来場者が前年度を上回っており、目標を達成した。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 市民まつりへの来場者は増えているが、毎年同じ形式で行うだけでなく、新しい企画を検討する必要がある。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 市民主体の実行委員会による企画・運営を通じて市民同士の交流や連帯意識が生まれているため、毎年同じ形式で行うだけでなく新しい企画を検討しつつ、引き続き実行委員会により開催する。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 現在は市が務めている事務局を4年後を目指し実行委員会が担うようにし、実行委員会が企画だけでなく運営も行う。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

					事業名	市民まつり事業									
番号	①	事務事業名	市民まつり事業			款	6	項	1	目	1	大事業	5	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度			平成24年度			終了（予定）年度	—							

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民が主体となって実行委員会を組織し、まつり全体の企画・運営を行う。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 地域文化、産業の発展・向上を目指すため、市民相互のふれあいの場を創出する

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算 決算		2,854 2,801	3,100 2,978	3,100 3,090	3,300
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
① 市民まつり実行委員会補助金						3,090	千円
②							千円
③							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
実行委員会人数	人	目標 実績	20 12	20 14	20 24	20 10	20
		目標 実績					
<備考：活動の概要（当該事業年度）>							
・市民まつり実行委員会に補助金を交付し、まつりの企画運営を行う。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

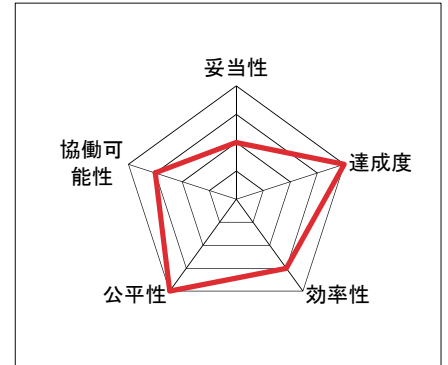
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 平成24年度から、実行委員会形式の市民まつりとなった。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント> 市民主体の実行委員会による企画・運営を通じて市民同士の交流や連帯意識が生まれているため、今後も補助金を交付し、実行委員会による開催を引き続き行う。今後はより主体的に行うため、実行委員会が担う事務を順次増やしていく。
(何をどのような状態に改善したのか) 健康展、農業展、リサイクルマーケット、シルバー展とも連携し、同時開催で事業を行った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	2
達成度	4
効率性	3
公平性	4
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど) 個別で行っていた健康展などの他事業と連携し、同時開催で事業を行った。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど) 実行委員会の事務局を市が務めており、市民が企画はしているが運営はあまりできていない。
--

7. 今後の方向性

拡充

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など) 市民主体の実行委員会による企画・運営を通じて市民同士の交流や連帯意識が生まれているため、今後も補助金を交付し、実行委員会による開催を引き続き行う。今後はより主体的に行うため、実行委員会が担う事務を順次増やしていく。
